

EPIDEMIOLOGY OF LEPTOSPIROSIS IN LIVESTOCK IN THAILAND

ドゥワンジャイ, スワンチャローエン

<https://hdl.handle.net/2324/1441338>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



論文審査の結果の要旨

主論文は日本学術振興会（JSPS）の論博事業奨学生（チーシス）として単名で提出されています。内容は、人獣共通感染症であるレプトスピラ感染症の、タイ国の家畜における疫学と、ヒトのレプトスピラ感染症との血清疫学的関連性、および遺伝学的診断法の一つである LAMP 法に使用するレプトスピラ感染症診断のための新しいプライマーの開発に関するものです。学位論文の構成は総説的序文、4つの論文（いずれも筆頭著者）および考察からなっています。

4つの論文のうち、第1論文は1999年から2000年にかけてタイで14,000人以上もの患者を出したレプトスピラ感染症の流行のあとを受け、家畜の感染実態を初めて全国レベルで行ったもので、ウシ 9288 頭中 9.9%、スイギュウ 1376 頭中 30.5%、ブタ 1898 頭中 10.8%、ヒツジ 1110 頭中 4.7%、ヤギ 516 頭中 7.9% でレプトスピラに対する抗体を保有していることを報告しています。

第2論文は2005年にタイ国東北部の一地方である Nakohon Ratchsima 地域の家畜の血清疫学調査の報告です。この地域は特にヒト患者の発生が多いため家畜の感染実態が調べられ、抗体陽性率は、イヌ 200 頭中 33.0%、ブタ 207 頭中 1.9%、ウシ 103 頭中 89.3%、スイギュウ 100 頭中 100% であることを報告しています。

第3論文は、2007-2008年、タイにおける水上レジャーのひとつである、いかだくんだり（rafting）のガイドとツアー客およびカエルやコウモリ等の周囲に生息する動物のレプトスピラ感染実態を調べました。ガイド 87 名中 42 名（59.8%）が抗体を保有しており、血清型は Bratislava, Shermani が高頻度であり、周辺地域のウシやイヌ、さらにはカエルからも同一の血清型に対する抗体が検出され、これらの動物がヒトへの感染源になっていることが推測されました。

第4論文は病原性レプトスピラの遺伝子を検出するために、LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法に使用するための 16SrDNA をターゲットにする新しいプライマーの組合せを開発し、より迅速にレプトスピラ遺伝子を検出することに成功しました。

このように申請者は全国的、地域的な家畜の血清疫学的調査を行い、タイ国の家畜のレプトスピラ感染実態を明らかにして、家畜がヒトへの感染源となる可能性を示唆し、さらに遺伝子診断法のための新しいプライマーの組合せを開発しました。

以上の成績は、この方面の研究において意義ある成果であると考えられます。本論文についての試験は、まず目的・方法・研究結果・意義の概要について説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、ほぼ満足すべき回答を得ました。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格であると判断致しました。